

< 第4分科会 > 知性・創造性

研究課題 知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

分科会の趣旨

今日、私たちは知識基盤社会を迎え、知識や技術の国際競争の激化、異なる文化や文明との共存や国際協調の必要性など新たな課題に直面している。加えて我が国では、少子高齢化の急激な進行による社会的活力の低下、人間関係の希薄化などの問題を抱え、先行きの不透明感や閉塞感が一層高まってきている。

こうした予測困難なこれからの社会を生き抜くためには、しなやかな知性や豊かな創造性を発揮し、互いの個性や絆を大切にす社会づくりに貢献できる日本人の育成が不可欠である。

これまで学校は、将来を担う子どもたちに、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指し、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に真摯に取り組み、努力を重ねてきた。今後さらに、基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろんのこと、どのような変化にも対応できる柔軟な思考力や知恵、自分と異なる視点や価値基準を理解し、協働して課題を解決できる力や新しい価値を発見し、新たな価値を創造できる力等を、これからの社会を生き抜くための学力として、より確かに育んでいかなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善について具体的な方策を明らかにする。

研究の視点

(1) これからの社会を生き抜くための学力を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

趣旨でも述べたように、これからの社会を生き抜くための学力として、基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろんのこと、どのような変化にも対応できる柔軟な思考力や知恵、自分と異なる視点や価値基準を理解し、協働して課題を解決できる力や新しい価値を発見し、新たな価値を創造できる力、すなわち、しなやかな知性や豊かな創造性を育てていくことが重要である。

校長は、このことをしっかりと踏まえ、先見性と強いリーダーシップのもと、子ども、学校、地域等の実態を的確に分析するとともに、課題を明確にし、全教職員の協働と保護者や地域との連携を通じ、より質の高い教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組むことが求められている。

このような視点に立ち、教育課程の編成・実施・評価・改善を推進する上で、これらの社会を生き抜くための学力の育成を中核に据え、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 共に生きる知恵を磨き、高め合う教育活動の創造・推進

今日の知識基盤社会に必要とされる知識・技能の不断の更新や様々な分野でのイノベーションの創出のためには、しなやかな知性や豊かな創造性を身に付けることが不可欠である。生涯にわたって能動的に学び続け、個人の自立と様々な人々との協働に向けた力を養い、その成果を社会貢献に生かしていくことが重要となる。

その実現に向けて、今、学校には、基礎的な知識・技能の確実な習得はもちろん、個々の能力や特性に応じた学びや、子どもたち同士の学びあい、さらには学校内外の様々な人々との協働や多様な体験を通じた課題探求型など、新たな学習の在り方が求められている。子どもたちが共に生きる知恵を磨き、互いに高め合うことのできる質の高い教育活動を創造・推進し、しなやかな知性や豊かな創造性を育てていかなければならない。

このような視点に立ち、子どもたちが共に生きる知恵を磨き、互いに高め合う教育活動を創造・推進する上で、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。